

石路黄なり

松岡隆子

おしろいが咲いて赤子の声がして
予後の歩に添ひて色なき風のなか
どんぐりの数に日の差す水の底
鴨の来てさざ波綺羅を尽しけり
水の面の昼の昏さやピラカンサ
棒杵の不要の数の冬に入る
神留守の蝶を先だて太鼓橋

知る人の声にふり向く石路黄なり

悼・神谷フジ子さん

流星の筑波山の空へ逝かれしや

惜別や夜も山茶花の散りやまず

森の日の深沈として水涸るる

涸川の底ひを風の転がれり

縹集同人の神谷フジ子さんが十一月一日に逝去された。「茨城葉の会」のリーダーとして活躍され会の皆さんの信望も厚く、この四月には葉賞を受賞され今後の活躍が期待されていただけに誠に遺憾である。(見送りに出てたまゆらの後の月)。本号の作品が遺作となった。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

『岡本眸全句集』が来年二月初旬に刊行される運びとなった。『朝』から『午後の椅子』までの十句集とそれ以後の作品が収載され、俳句で綴られた生涯の日記と言うべき全句集である。ぜひお手元に置いて愛読していただきたい。